

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	兵庫県立大学
設置者名	兵庫県公立大学法人

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
国際商経学部	国際商経学科		50		50	100	13	
社会情報科学部	社会情報科学科		50		8	58	13	
工学部	電気電子情報工学科		56	6		62	13	
	機械・材料工学科					62	13	
	応用化学工学科					62	13	
理学部	物質科学科		56	4		60	13	
	生命科学科		56			60	13	
環境人間学部	環境人間学科		56	43		99	13	
	環境人間学科 食環境栄養課程		56		39	138	13	
看護学部	看護学科		50		113	163	13	
経済学部	国際経済学科		50		4	54	13	
	応用経済学科		50		4	54	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.u-hyogo.ac.jp/campuslife/scholarship/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	兵庫県立大学
設置者名	兵庫県公立大学法人

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://puc-hyogo.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2025/04/R7_yakuin.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	元 株式会社ダイセル 専務執行役員	令和5年4月 1日～令和8 年3月31日	特命事項
非常勤	株式会社神戸製鋼所 顧問	令和5年4月 1日～令和8 年3月31日	特命事項
非常勤	学校法人甲南学園 理事	令和6年4月 1日～令和9 年3月31日	特命事項
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	兵庫県立大学
設置者名	兵庫県公立大学法人

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>○毎年度12月に本部から各学部に対して次年度シラバスの作成を依頼</p> <ul style="list-style-type: none"> ・依頼時に全学統一のシラバス記載要領とフォーマットを配布する。 ・シラバス記載要領において、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準等の記載方針を明示している。 <p>○毎年度3月に各学部から提出されたシラバスデータをPDF化する。</p> <p>○毎年度4月上旬に当該年度のシラバスについて、履修登録期間前までに学内システムで学生に公開した後、大学ホームページで公表する。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.u-hyogo.ac.jp/campuslife/syllabus/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>○単位認定方針について、以下のとおり学生に明示し実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学部規程において、学則に基づいた成績の評価方法及び成績標語に対応した評価基準を規定し、公表するとともに、入学時に全学生に配布する「履修の手引き」に掲載している。 ・全学統一のシラバス記載要領において、「講義目的及び到達目標」に対応した「成績評価の基準・方法」を記載することとし、記載要領に従って各教員がシラバスを作成し、成績評価を行っている。 ・成績に関する不服申立てが組織的な対応となるよう、「成績に対する確認及び不服申立てに関する要綱」を令和3年4月1日から施行・運用している。 	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>○GPA制度を導入しており、算出方法については、GPA制度要綱を策定し、公表している。(算出方法等は別添要綱参照)</p> <p>○GPA制度要綱で定める算出方法を成績管理システムに登録し、全学生のGPAデータを確認できるようにしている。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.u-hyogo.ac.jp/GPAseido2024.pdf
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>○全学及び学部毎にディプロマポリシーを大学ホームページで公表するとともに、入学時に全学生に配布する「履修の手引き」に掲載している。</p> <p>○卒業認定方針については、各学部規程において、学則に基づいた卒業要件(必要単位数)を規定し公表するとともに、入学時に全学生に配布する「履修の手引き」に掲載している。</p> <p>○卒業認定は、学生の単位取得状況に関するデータを教務委員会が詳細に確認し、教授会で最終確認している。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	<p>「ディプロマポリシー」</p> <p>https://www.u-hyogo.ac.jp/about/policy/</p> <p>「卒業認定基準」</p> <p>https://www.u-hyogo.ac.jp/about/authorization/</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	兵庫県立大学
設置者名	兵庫県公立大学法人

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://puc-hyogo.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2025/03/R5_1_zaimu.pdf
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	https://puc-hyogo.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2025/02/R5_3_jigyoku.pdf
監事による監査報告(書)	https://puc-hyogo.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2025/02/R5_4_kanji.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 対象年度:)
公表方法:
中長期計画(名称: 第三期中期計画 対象年度: 令和7年度～令和12年度)
公表方法: https://puc-hyogo.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2025/03/202504middle_plan.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.u-hyogo.ac.jp/about/accredit/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.u-hyogo.ac.jp/about/accredit/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 国際商経学部
教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.u-hyogo.ac.jp/academics/em/)
(概要) グローバル化やイノベーションが進む中で、社会の変化に対応すること、及び社会の変化を生み出していくことができる主体性及び倫理性を持ち、経済学及び経営学を基盤に学際的な知識を修得し、分析力、コミュニケーション能力、問題解決能力を身につけ、地域社会に貢献できる有為な人材を育成すること、経済学及び経営学を中心に関連する分野についての研究を行うことを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.u-hyogo.ac.jp/academics/em/)
(概要) 下記の能力を身につけた学生に学位を授与する。 1 本学部で提供される経済学、経営学、及びそれに関連する領域に関する専門知識を有し、それを活用して分析する能力を身につけている 2 多様化しグローバル化する社会において個性を発揮し、豊かな社会の実現に貢献するための的確なコミュニケーション能力 (外国語能力を含む) を身につけている 3 専攻する学問領域の知見をもとに、現実の社会における事態に関して的確な考察や論理的で合理的な意思決定をし、社会の問題を解決する能力を身につけている 4 社会や地域の担い手としての自覚を持ち、高い職業倫理のもとで専門的知識を生かして責任ある行動をとることができる
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.u-hyogo.ac.jp/academics/em/)
(概要) 1 1 年次から専門教育の基礎となる科目を配置し、専門共通教育科目として履修できるようにする。 2 1 年次から 4 年次まで、学年に応じた少人数のゼミナールを配置し、学生が主体的に学ぼう支援を行う。 3 経済学コース及び経営学コースにおいては、学際的な視点を持つことを支援するため、2 年次前期に、学修する意欲や関心及び成績に応じてコース及び教育プログラムを選択させたうえで、2 年次後期からは各コース及び教育プログラムに分かれて、全学で共通する教養科目に加え、高い専門性を修得可能にする。 4 学部全体で共通に履修する 1 年次の専門共通科目に始まり、次に専門科目のうちの専門コア科目を履修し、専門知識を高めた後で、より専門性の高い科目を履修する。 5 グローバルビジネスコースにおいては、全ての科目を英語で履修し、卒業できるようにする。 6 英語によるコミュニケーション能力を高めるために、海外研修や英語での授業に参加できるようにする。 7 早期卒業制度を設け、専門職大学院や研究大学院との連携を深めて高度専門職業人としてのキャリア構築を支援する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法 : https://www.u-hyogo.ac.jp/academics/em/)

<p>(概要)</p> <p>経済・経営といった社会の動きに広く関心を持ち、世界に羽ばたき地域に根差すことで自らの夢を実現しようとする意欲と好奇心の豊かな学生を求める。その為に、知識を与えられることだけで満足せずに、前向きに課題に向き合い、自ら積極的に調べ考察し、必要な知識と能力を着実に獲得するための基礎的学力を有し、未知の世界に果敢に挑戦するチャレンジ精神にあふれた学生を求める。</p>
--

社会情報科学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.u-hyogo.ac.jp/academics/sis/ ）
<p>(概要)</p> <p>情報科学を軸として、高度化・複雑化が続く社会における課題を解決する社会情報科学の教育と研究を行うことを目的とし、情報科学技術に関する確かな知識・技能、実践的な情報処理能力とデータ分析能力を身につけ、ビックデータを分析・活用し、経済動向の予測、社会政策の立案、企業における経営戦略・マーケティング・生産性向上などの分野で貢献する人材を育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.u-hyogo.ac.jp/academics/sis/)</p> <p>(概要)</p> <p>下記の能力を身につけた学生に学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 情報科学およびデータ分析の専門知識を身につけている 2 組織や社会における諸問題を客観的にとらえ、問題解決に向けて論理的に考える能力を身につけている 3 データを扱い分析するための専門知識とスキルを修得し、情報倫理をわきまえて利活用する能力を身につけている 4 チームによる効果的な問題解決を行うためのコミュニケーション能力を身につけ、リーダーシップを発揮することができる
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.u-hyogo.ac.jp/academics/sis/)</p> <p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 専門教育では、専門基礎科目と専門教育科目を配置し、段階的な学習を可能にする。 2 専門基礎科目として、数学、データ分析、情報科学の基盤科目を配置し、講義・演習形式による教育を行うことによって、基礎的知識・技能の定着を図る。さらに、経済、経営の概論科目を配置し、現代社会における経済現象、企業・組織の経営に関する基本的な考え方を身につける。 3 専門教育科目として、情報科学関連、データ分析関連、意思決定関連、社会関連基本・発展の科目群を配置し、社会情報科学の専門性を高める教育を実施する。 4 演習科目を各年次・各セメスターに配置し、社会における諸問題に挑む柔軟な思考力と問題解決能力を養成する。 5 履修科目の単位認定にあたっては、科目の性質に応じて試験、課題への取り組み、授業貢献度などを適切に組み合わせて評価し、その基準は開講に際して明示する。
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.u-hyogo.ac.jp/academics/sis/)</p> <p>(概要)</p> <p>情報技術やデータ分析に関心を持ち、社会や組織における様々な課題にそれらを用いて取り組むことに意欲がある学生を求める。そのために、必要な知識と技能を確実に身につけるための基礎的学力を有する学生、データを生み出す現代社会に関心と基礎知識を有する学生、前向きに課題に向き合い、積極的に取り組む意欲ある学生を求める。</p>

工学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.u-hyogo.ac.jp/academics/eng/ ）
<p>（概要）</p> <p>人類の利益と安全に貢献できる有能な人材の育成を図るとともに、先導的、創造的研究に基づく工学における知の発信基地として、我が国と兵庫県の技術と文化の発展に寄与する。そこで本学部では、高い倫理観の涵養と異文化理解の深化、グローバル・コミュニケーション能力の向上を目指した教育を行うとともに、工学専門基礎教育と高度な研究指導により、国際的に通用する資質と能力を兼ね備えた専門技術者・研究者を育成することを目標とし、電気電子情報工学科、機械・材料工学科、応用化学工学科毎に特色ある教育を推進する。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.u-hyogo.ac.jp/academics/eng/ ）
<p>（概要）</p> <p>下記の能力を身につけた学生に学位を授与する。</p> <p>工学部共通</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 高い倫理観と異文化理解力を有している 2 グローバルコミュニケーション能力について、基礎的能力を有するとともに能力を継続的に向上させる意欲を有している 3 工学専門基礎知識および各分野の高度な工学専門知識を身に付けている 4 工学専門知識を継続的に身に付ける意欲を有している 5 工学専門知識を応用して技術課題を解決でき、また研究開発を遂行できる能力を有している 6 国際的に通用する資質と能力を有している 7 技術課題の解決、研究開発において、高い倫理観と異文化理解の継続が重要であることを認識している <p>以上に加えて、コースごとに以下の能力を身につけていることを必要とする。</p> <p>電気電子情報工学科 電気工学コース</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 電気系工学の専門基礎力を身に付けている 2 電力システムに関する知識と技術、電気・電子材料に関する知識とこれらを活かしたデバイスに関する知識と技術を習得している 3 最新の知識と技術をより実践的なものとして理解している <p>電気電子情報工学科 電子情報工学コース</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 電気系工学の専門基礎力を身に付けている 2 電子デバイスと回路システムに関する知識と技術、およびこれらを応用・発展させた情報通信と情報科学に関する知識と技術を習得している 3 常に高度化する技術について、自ら継続的に知識を得る能力を身につけている <p>機械・材料工学科 機械工学コース</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 機械工学の基礎となる四力学の知識を身に付けている 2 四力学に基づいた高度な機械専門知識を身に付けている 3 機械の製作過程を把握した機械設計ができる <p>機械・材料工学科 材料工学コース</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 材料専門基礎知識および高度な材料専門知識を身に付けている 2 機械、電気、化学に関連した材料開発と材料解析ができる 3 機械工学の基礎を身につけている

応用化学工学科 応用化学コース

- 1 化学の専門基礎知識および応用まで見通せる高度な専門知識を身に付けている
- 2 化学物質の性質を把握した安全で効率的な実験・研究設計ができる
- 3 将来の発展を見越した高機能化学・生物材料の開発および解析ができる

応用化学工学科 化学工学コース

- 1 化学工学に関する基礎知識を習得している。また、幅広い化学物質の取扱いができる
- 2 化学プロセスの設計および操作に必須となる化学工学の専門知識を取得している。また、物質生産や環境エネルギー分野に貢献するための次世代のものづくりセンスを身に付けている
- 3 ミクロからマクロな視点における物質の性質および挙動を理解している。また、化学プロセスの設計および操作ができる

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.u-hyogo.ac.jp/academics/eng/>)

(概要)

- 1 全学共通教育および工学倫理教育などにより、高い倫理観と異文化理解力を身に付けさせるとともに、これらの継続が重要であることを認識させる
- 2 全学共通教育のグローバルコミュニケーション科目および各学科の技術英語教育により、グローバルコミュニケーション能力について基礎的能力を身に付させるとともに継続的な向上が重要であることを認識させる
- 3 各学科の専門基礎科目により、工学専門基礎知識を身に付させる
- 4 各学科の専門教育科目により、高度な工学専門知識を身に付けさせる
- 5 各学科の専門基礎科目および専門教育科目により、工学専門知識の継続的な習得が重要であることを認識させる
- 6 各学科の実験・実習・演習科目および卒業研究により、工学専門知識を応用し技術課題を解決でき、研究開発を遂行できる能力を身に付させる

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.u-hyogo.ac.jp/academics/eng/>)

(概要)

工学部の理念および教育目標に賛同し、それらに向かって努力する意欲のある学生を求める。

理学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.u-hyogo.ac.jp/academics/sci/ ）
<p>（概要）</p> <p>「物質の科学」及び「生命の科学」を2本の柱とし、教育研究を展開する。数学、物理学、化学、生物学及び地学の学際領域又は境界領域に芽生える新しい科学と技術に対応するため、物質科学科、生命科学科の2学科構成とし、相互に連携しながら、学科ごとに特色ある教育研究を推進する。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.u-hyogo.ac.jp/academics/sci/ ）
<p>（概要）</p> <p>理学部では、「物質科学」と「生命科学」を2本の柱とした教育と研究を展開している。数学、物理学、化学、生物学及び地学の学際領域に芽生える新たな科学と技術に対応するため、物質科学科と生命科学科の2学科構成により、互いに連携しながら下記に示す学生を育成し学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 物質科学や生命科学の基礎となる体系的な知識や実験技術・情報処理能力を身につけている 2 物質科学や生命科学に関わる問題解決に貢献できる、深い理解と洞察力を身につけている 3 自身の学習した領域に加えて、自然科学の学際領域において今後芽生える種々の問題にも関心を示すことができる 4 世界レベルの視点に立ち、国際的に通用する感覚を身につけている <p>以上に加えて、学科ごとに以下の能力を身につけていることを必要とする。</p> <p>物質科学科</p> <p>物性を支配する原理や法則・物性の発現機構、物性制御の手法や物質創製のための反応機構について体系的に理解できている下記学生を育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 物質科学の基礎となる数学、物理学や化学の分野の専門知識と実験技術・情報処理能力を身につけている 2 物質科学研究の基礎となる物性を支配する原理や法則、物性制御の手法や物質創製のための反応機構に関わる専門知識と実験技術を身につけており、得られた実験データを正しく解釈・評価できる 3 物質科学の基礎に関する深い理解と洞察力に基づき、専門・学際領域の問題解決に関心を示すことができる 4 物質科学における世界レベルの研究を体験することにより、国際的に通用する感覚を身につけている <p>生命科学科</p> <p>生物が持つ複雑かつ巧妙な構造と機能の関係について、原子・分子レベルで理解する力を身につけている下記学生を育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生命科学の諸分野を理解するための、数学、物理学、化学や生物学や、地球科学の基礎知識と基礎実験技術、情報処理能力を身につけている 2 生命科学の基礎となる生物の構造と機能に関わる細胞についての原子・分子レベルにおける専門知識と実験技術を身につけており、得られた実験データを正しく解釈・評価できる 3 生命科学の基礎に関する深い理解と洞察力に基づき、専門・学際領域の問題解決に意欲と関心を示すことができる 4 生命科学における世界レベルの研究を体験することにより、国際的に通用する感覚を身につけている

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.u-hyogo.ac.jp/academics/sci/>)

(概要)

学際的な研究と教育をめざす本学部は、狭い専門分野に限った学科とせず、物質科学、生命科学を2本の柱とした学科としている。あえて対応をつけるとすれば、物質科学科は数学、物理学と化学の内容に相当し、生命科学科は基礎的な数学、物理学、化学と生物学および地球科学の講義内容になっている。両学科とも、講義の理解を深めるために、演習や実験など以下のカリキュラムを充実させている。

- 1 講義内容を自然の現象と対応させて理解し、また、問題を解くことで応用力を身につけ、科学に対する興味を高めることを目的に、1年次から3年次まで必修の実験・演習科目を配当している
- 2 英語力やコミュニケーション能力の充実のために、2年次では基礎ゼミナールや英語による専門講義を、4年次では配属講座で科学英語のゼミナールを行う
- 3 情報科学関連科目を1年次から3年次まで配当し、高度な情報処理能力の習得を目指す
- 4 1、2年次学生に対して、科学に対する興味・関心を継続的に刺激することを目的として、最先端の研究成果を紹介する基礎ゼミナール（物質科学科）や生命科学入門（生命科学科）などの科目を配当している
- 5 両学科にはそれぞれ下記のように3つのコースをおき、履修モデルには、各専門科目を「標準科目」あるいは「推奨科目」として挙げている。本カリキュラムを通して自然科学の基本原則を解明するための基礎知識、実験技術やコミュニケーション能力、遭遇した問題解決に貢献できる判断力と深い洞察力や新しい分野を開拓するための旺盛な好奇心を育成し、理学部の目指すディプロマポリシーを保証する

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.u-hyogo.ac.jp/academics/sci/>)

(概要)

本学理学部の理念に共感し、意欲ある学生を求める。

環境人間学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.u-hyogo.ac.jp/academics/shse/ ）
<p>（概要）</p> <p>環境に関わる科学技術、生活技術、社会構築技術などの技術学と環境政策など環境に関する政策学を、人間学を基軸として考究するとともに、環境に関する識見をもち、環境問題に関しての思想的な発信と環境と共生する人間性を育む文化の創造を担う人間を育てること、また、人間学の基本に立って技術と政策の活用を図ることのできる実務に強い人材を育てることを目的とする。</p>
卒業の認定に関する方針 （公表方法： https://www.u-hyogo.ac.jp/academics/shse/ ）
<p>（概要）</p> <p>下記の能力を身につけた学生に学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自然と人間の共生の実現について多面的な視点から思考できる 2 持続的な社会の発展に資する企画力と実践力を備えている 3 教養教育と専門教育における文系から理系にわたる各教育コース・課程の幅広い専門知識を身につけている 4 技術と政策の活用を図ることのできる論理的思考力と実務能力を身につけている 5 実社会における共生や問題解決に資するコミュニケーション能力と情報処理能力を有している <p>食環境栄養課程</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会の諸栄養課題を認識・理解している 2 管理栄養士として栄養管理を実践する上での基本となる、人間の健康（疾病）と社会・環境、食べ物の関係を理解している 3 管理栄養士として個人、集団、地域を対象とした栄養管理を行うための基本的知識と技能を有している 4 管理栄養士として栄養管理を実践する上で必要とされる、思考・判断力、基本的な課題に対応する能力を有している 5 最新の食を取り巻く情報を収集・分析・活用し、保健、医療、介護、福祉、教育などの領域において科学的根拠（エビデンス）に基づく情報提供や課題解決に活かす能力を有している 6 食と栄養の専門性を活かして、社会の栄養・健康課題解決に主体的に、かつ多職種や他者と連携して取り組もうとする姿勢を有している 7 食を通して県民・国民の健康と幸せに寄与したいという姿勢を有している 8 専門的知識と技術を向上させ続けたいという意欲を有している
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法： https://www.u-hyogo.ac.jp/academics/shse/ ）

<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 環境と人間に関する技術と政策に焦点を合わせ、時代のニーズに対応した多様な研究と教育を行うため、少人数教育を実施する 2 学生一人ひとりの個性を尊重し、1年次に文系・理系の区別なく幅広い知識や教養を修得させるための授業科目や教育コース（6コースおよび1課程）を提供する 3 基礎教育では、全学共通科目として、特にグローバル・コミュニケーション能力や情報リテラシーの育成・強化に重点を置いた科目を設定する 4 大学での学びや社会において必要となる基礎的リテラシーや少人数での議論やプレゼンテーションなどのコミュニケーション能力を習得させるため基礎ゼミナールを実施する 5 実社会が直面する問題やその問題解決への取り組みを実体験を通じて学ぶフィールドワークを実施する 6 専門教育では、主専攻としての専門科目Ⅰのみならず、関連する科目を専門科目Ⅱとして、文系・理系の各分野が連携した多様で弾力的なカリキュラムを提供する 7 3年次より少人数指導による専門ゼミナールを開講し、学生と教員の対話を重視した教育研究の展開を図り、4年間の集大成として卒業研究指導を実施する
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.u-hyogo.ac.jp/academics/shse/)</p>
<p>(概要)</p> <p>環境と人間に関わる諸課題に関心を持ち、人間や地域から地球規模に至る様々な問題の発見・解決に意欲的で、文系・理系にこだわらない新たな学問分野に挑戦しようという意欲を有する学生を求める。</p> <p>(食環境栄養課程)</p> <p>豊かな食生活と健康な社会の実現に向けて、食と栄養に関する科学的視点と専門的実践能力を身につけたいという意欲を有する学生を求める。</p>

看護学部
<p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.u-hyogo.ac.jp/academics/cnas/）</p> <p>（概要）</p> <p>豊かな人間性の形成により生命の尊厳を基調とした倫理観を身につけ、社会の人々に信頼される高い看護の専門的知識・実践力を有し、地域や国際社会の保健・医療・福祉の課題に柔軟に対応できる看護職の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>（公表方法：https://www.u-hyogo.ac.jp/academics/cnas/）</p> <p>（概要）</p> <p>下記の能力を身につけた学生に学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人間、文化、社会、自然に関する幅広い教養を培うことによって豊かな人間性を育み、人としての権利を尊重して行動することができる 2 主体的に学ぶ姿勢をもって変化する社会の様々な課題を発見し、その解決への道を他者と共に考え、行動することができる 3 看護の基礎となる人間、健康、環境に関する知識や技術を体系的に修得することによって、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる 4 看護を必要とする人を全人的にとらえ、その人の痛みや喜びを分かち合うことによって、生命の尊厳を重んじた看護を実践することができる 5 実践・教育・研究の場において看護専門職として活動するだけでなく、保健・医療・福祉等関連領域の専門職と学際的に連携することができる 6 コミュニティを対象とした視点を養うことによって、地域生活者の健康問題に積極的に取り組みながら看護を実践することができる 7 コミュニケーション能力を養い、グローバルな視野に立って世界の健康問題に取り組む姿勢をもつことができる 8 看護の課題を探究する総合的な視野を培うことによって、看護学を発展させていく能力を養うことができる
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>（公表方法：https://www.u-hyogo.ac.jp/academics/cnas/）</p> <p>（概要）</p> <p>看護学部では、「豊かな人間性の形成により、生命の尊厳を基調とした倫理観を身につけ、社会の人々に信頼される高い看護の専門的知識・実践力を有し、地域や国際社会の保健・医療・福祉の課題に柔軟に対応し、職業創造ができる看護職を育成します」という教育理念にもとづいて、8項目のDPを掲げ、その目標を実現するためのカリキュラムを構成している。全学共通科目（26単位以上）および専門教育科目（75単位以上）に加えて看護学に関連した専門関連科目（28単位以上）を配置し、諸学問と看護学を有機的に結びつけながら学際的視野に基づいた看護実践力の育成を図ろうとしている。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>（公表方法：https://www.u-hyogo.ac.jp/academics/cnas/）</p> <p>（概要）</p> <p>本学の理念および教育目標に賛同し、その一翼を担おうとする意欲と能力のある人材を求める。受け入れに当たっては、国籍・宗教・障害等にかかわらず、可能なかぎり妥当かつ公正な方法によって選抜する。</p>
経済学部

<p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.u-hyogo.ac.jp/kiteikeizai.pdf）</p> <p>（概要） グローバル化し複雑化していく現代社会の要請に応える経済学を体系的に提供するとともに、経済学を中心とした学際的なアプローチによって、人間社会の変容を総合的に分析し、現代社会の抱える問題をつかみ、その解決策を見いだす人材を育成することを目標として、国際経済学科、応用経済学科ごとに特色ある教育研究を推進するものとする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.u-hyogo.ac.jp/kiteikeizai.pdf）</p> <p>（概要） 下記の能力を身につけた学生に学位を授与する。</p> <p>国際経済学科</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 経済学および経済学に関連する専門的知識を身につけている 2 豊かな教養を身につけている 3 国際社会・経済に関して深く理解している 4 国際社会において活躍するために必要な優れたコミュニケーション能力を身につけている 5 国際的な問題について具体的な解決法を思考する力を有している 6 課題解決に取り組む主体性・協働性を有している <p>応用経済学科</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 経済学および経済学に関連する専門的知識を身につけている 2 豊かな教養を身につけている 3 地域経済・環境問題・公共政策などに関して深く理解している 4 社会において活躍するために必要な優れたコミュニケーション能力を身につけている 5 的確な情報分析に基づく問題解決法を思考する力を身につけている 6 課題解決に取り組む主体性・協働性を有している
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.u-hyogo.ac.jp/kiteikeizai.pdf）</p> <p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 1年次から経済学の基礎教育をおこなう 2 幅広い教養科目と専門関連科目を学ぶ 3 2年次から国際経済学科・応用経済学科に分属し、それぞれにおける専門性を高める。 4 コミュニケーション能力を高める教育 5 問題発見、課題解決力を養成する教育
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： ）</p> <p>（概要） 2019年度生から募集停止</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：

<https://www.u-hyogo.ac.jp/sosikizu202505.pdf>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	5 人	—					5 人
国際商経学部	—	27 人	25 人	7 人		1 人	60 人
社会情報科学部	—	10 人	6 人		4 人		20 人
工学研究科	—	43 人	44 人		19 人		106 人
理学研究科	—	31 人	29 人	1 人	23 人		84 人
環境人間学部	—	36 人	14 人	2 人	6 人		58 人
看護学部	—	16 人	8 人	8 人	18 人	7 人	57 人
社会科学研究科	—	14 人	5 人			1 人	20 人
情報科学研究科	—	15 人	3 人				18 人
地域資源マネジメント研究科	—	5 人	3 人	2 人			10 人
減災復興政策研究科	—	5 人	5 人				10 人
緑環境景観マネジメント研究科	—	6 人	5 人	2 人			13 人
研究所等	—	21 人	20 人	4 人	2 人		47 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
人		人					人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www-cv01.ufinity.jp/u_hyogo/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
国際商経学部	330 人	337 人	102%	1440 人	1547 人	107%	—	—
社会情報科学部	100 人	106 人	106%	400 人	434 人	109%	—	—
工学部	352 人	358 人	102%	1408 人	1514 人	108%	若干名	7 人
理学部	175 人	175 人	100%	700 人	747 人	107%	若干名	0 人

環境人間学部	205 人	209 人	102%	820 人	845 人	103%	若干名	2 人
看護学部	105 人	106 人	101%	420 人	430 人	102%	—	—
経済学部	—	—	—	—	1 人	—	—	—
合計	1267 人	1291 人	102%	5188 人	5518 人	106%	若干名	人
(備考) ※国際商経学部 グローバルビジネスコースの外国人留学生選抜（定員 30 名）は 9 月入学のため、令和 7 年 9 月入学生の数には上記(a)～(d)に含まない。 ※在学生数には、修業年限超過学生を含む。								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
国際商経学部	351 人 (100%)	18 人 (5.1%)	303 人 (86.3%)	30 人 (8.5%)
社会情報科学部	92 人 (100%)	34 人 (37.0. %)	54 人 (58.7%)	4 人 (4.3%)
工学部	332 人 (100%)	211 人 (63.6%)	111 人 (33.4%)	10 人 (3.0%)
理学部	159 人 (100%)	113 人 (71.1%)	40 人 (25.2%)	6 人 (3.8%)
環境人間学部	198 人 (100%)	21 人 (10.6%)	173 人 (87.4%)	4 人 (2.0%)
看護学部	97 人 (100%)	4 人 (4.1%)	91 人 (93.8%)	2 人 (2.1%)
経済学部	2 人 (100%)	0 人 (0%)	1 人 (50.0%)	1 人 (50.0%)
合計	1231 人 (100%)	401 人 (32.6%)	773 人 (62.8%)	57 人 (4.6%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
国際商経学部	330 人 (100%)	277 人 (84%)	49 人 (15%)	4 人 (1%)	人 (%)
社会情報科学部	101 人 (100%)	89 人 (88%)	7 人 (7%)	5 人 (5%)	人 (%)
工学部	351 人 (100%)	289 人 (82%)	42 人 (12%)	20 人 (6%)	人 (%)
理学部	178 人 (100%)	139 人 (78%)	29 人 (16%)	10 人 (6%)	人 (%)
環境人間学部	208 人 (100%)	189 人 (91%)	16 人 (8%)	3 人 (1%)	人 (%)

看護学部	105 人 (100%)	96 人 (91%)	8 人 (8%)	1 人 (1%)	人 (%)
合計	1273 人 (100%)	1079 人 (85%)	151 人 (12%)	43 人 (3%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
○毎年度 12 月に本部から各学部に対して次年度シラバスの作成を依頼 <ul style="list-style-type: none"> ・依頼時に全学統一のシラバス記載要領とフォーマットを配布する。 ・シラバス記載要領において、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準等の記載方針を明示している。
○毎年度 3 月に各学部から提出されたシラバスデータを P D F 化する。
○毎年度 4 月上旬に当該年度のシラバスについて、履修登録期間前までに学内システムで学生に公開した後、大学ホームページで公表する。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
○全学及び学部毎にディプロマポリシーを大学ホームページで公表するとともに、入学時に全学生に配布する「履修の手引き」に掲載している。				
○卒業認定方針については、各学部規程において、学則に基づいた卒業要件（必要単位数）を規定し公表するとともに、入学時に全学生に配布する「履修の手引き」に掲載している。				
○卒業認定は、学生の単位取得状況に関するデータを教務委員会が詳細に確認し、教授会で最終確認している。				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
国際商経学部	国際商経学科	124 単位	有	48 単位
社会情報科学部	社会情報科学科	124 単位	有	48 単位
工学部	電気電子情報工学科	124 単位	有	50 単位
	機械・材料工学科	124 単位	有	50 単位
	応用化学工学科	124 単位	有	50 単位
理学部	物質科学科	127 単位	有	50 単位
	生命科学科	127 単位	有	50 単位
環境人間学部	環境人間学科	130 単位	有	48 単位
	食環境栄養課程	130 単位	有	56 単位
看護学部	看護学科	137 単位	有	56 単位
経済学部	国際経済学科	130 単位	有	
	応用経済学科	130 単位	有	
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法： https://www.u-hyogo.ac.jp/campuslife/survey/		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.u-hyogo.ac.jp/about/access/>

<https://www.u-hyogo.ac.jp/about/access/barrier-free/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
国際商経 学部	国際商経学科	535,800 円	282,000 円	円	
社会情報 科学部	社会情報科学科			円	
工学部	電気電子情報工学科				
	機械・材料工学科				
	応用科学工学科				
理学部	物質理学科				
	生命科学科				
環境人間 学部	環境人間学科				
	食環境栄養課程				
看護学部	看護学科				

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学共通の学生情報システムを導入し、学生が web 上でシラバス検索・閲覧、履修登録、休講等の大学からの連絡確認、単位修得状況の確認などができる。 ・経済的な事情等により、授業料等の納付が困難である学生の修学を支援するための措置として、学則、授業料等に関する規程等に基づき、授業料の免除等（全額免除・半額免除・延納・分納）を実施（国制度の対象外の学生） <p>〔主な対象者〕</p> <p>生活保護法に規定する生活扶助を受けるものと同一世帯内にある者</p> <p>経済的事情により学費の負担が著しく困難な者</p> <p>学資を主として負担している者が天災その他の災害により授業料の納付が困難な者 等</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>（概要）</p> <p>各キャンパスのキャリアセンターにコーディネーター等を配置し、キャリアガイダンスや各種就職対策講座の開催、業界研究や企業説明会の開催、就職関連情報（求人・企業情報、インターンシップ情報、OGOB 情報など）の発信、個別相談の実施など、各キャンパスの特性に応じた、就職に関する様々な支援を実施している。</p> <p>加えて、地元企業を中心としたマッチングイベントの開催、各種就職支援システムの活用による情報発信力の強化、卒業生への就職支援等、学生に対する総合的なキャリア形成・就職支援を展開している。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>（概要）</p> <p>全学生に対し健康診断に併せて健康調査（アンケート）を実施するなど、学生の健康状態等の把握に努めるとともに、各キャンパスにおける教員と職員による学生相談及び支援体制の強化、心理的な問題を抱える学生に対するカウンセリング事業の拡充、障がい学生の支援体制の構築など、学生の多様なニーズに対応する学生生活支援の充実に努めている。</p> <p>併せて、本部保健センターに相談窓口（よろず相談、心理相談）を設置し、学生が気軽に相談できる体制を整備している。また、メンタルヘルスに関する情報発信も行っている。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：公表方法：教育情報の公表 https://www.u-hyogo.ac.jp/about/ 研究・産学官連携 https://www.u-hyogo.ac.jp/research/

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F128210108698
学校名 (〇〇大学 等)	兵庫県立大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	兵庫県公立大学法人

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		516人（ ）人	530人（ ）人	530（ ）人
内 訳	第Ⅰ区分	295人	297人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅱ区分	127人	133人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅲ区分	71人	79人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅳ区分（理工農）	人	人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	23人	21人	
	区分外（多子世帯）	人	人	
家計急変による 支援対象者（年間）				2人（ ）人
合計（年間）				532（ ）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	9人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	1人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人	人	人
計	10人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	3人
3月以上の停学	0人
年間計	3人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)、及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	11人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)、及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	38人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	38人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。